

介護家族への支援：支援の目的とそのための知識と技法

新型コロナウイルスは、私たちの生活に様々な影響を及ぼしています。高齢者介護の現場でも、自粛生活によって、サービスを十分に利用できないため身体機能、認知機能が低下し、それに伴う家族の介護負担の増加という影響を受けています。支援者側も感染によるクラスター発生予防のために神経を使いながらサービス提供をしています。とはいえ、日々の生活は続き、介護を含めた支援が高齢者本人と介護家族のみならず、サービス提供者へも求められています。

この研修会では、認知症ケアを中心とした介護家族への支援の理解と方法の基本について学ぶ機会を提供します。介護支援は、要介護の当事者支援が第一にあり、そのために家族支援を行います。その際に、当事者と家族双方の立場への倫理的配慮が必須となります。このバランスをどのように取るかという倫理的側面にも言及したいと思います。

介護家族への支援には、認知症の医学的理解、要介護当事者の心理的理解、高齢者福祉の制度ならびにサービス提供者の理解が必要です。それをもとに、介護家族への支援には、介護家族をどう理解し支援を組み立ていくかというアセスメントと技法が必要になります。これらについて、研修で取り上げていきます。

記

講師：小野寺敦志（国際医療福祉大学赤坂心理・医療マネジメント学部心理学科准教授）

日時：2021年10月10日（日曜日）10:00～16:00（昼食休憩1時間程度）

方法：Zoomによるオンライン講座（オンタイム＋録画視聴もしくは録画視聴のみ）

定員：100名（オンタイム＋録画視聴）。録画視聴のみは人数制限無し。

内容：介護家族の捉え方：家族における介護の位置づけを要介護者との関係からみる
要介護者の理解：認知症を中心に中高年以降の要介護の原因となるものを知る
高齢福祉分野の制度と介護に携わる専門職を知る
介護家族の理解：介護から生じる介護負担、介護ストレスを知る
ジェノグラムを用いて要介護者を軸にした家族関係をアセスメントする
エコマップを用いて要介護者を軸とした社会資源をアセスメントする
ジェノグラム・エコマップを用いて心理職の立場からの支援の方策を知る

参加費：① 日本家族心理学会会員、家族心理士・家族心理士補・家族相談士の有資格者
② 学生（大学院生・学部生）：申し込みの際に有効期限が明記された学生証の提示が必要
③ ①②以外の参加者

Zoom オンタイム＋録画視聴の場合

① 8,000円 ② 5,000円 ③ 10,000円

録画視聴のみの場合

① 7,000円 ② 4,000円 ③ 9,000円

申込期限：9月23日（木曜日）締め切り

研修ポイント

- * 家族心理士・家族心理士補・家族相談士；2ポイント（申請予定）
- * 臨床心理士；2ポイント
- * 研修証明書発行に際しては、受講後アンケートへの回答が必須となります